

今週（9月3日から9月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、不足日が多く、当座預金残高が390兆円弱から380兆円台前半まで減少したものの、取り上がるような動きは見られず、先週とほぼ変わらぬ地合いで推移した。

無担保コールO/N物は、3日は月末要因が剥落したことにより、出来高が5兆円台に回復した。出合いのレンジは邦銀勢を中心に▲0.07～▲0.03%となった。4日は税揚げ等の要因により大幅な不足日となったが、普通交付税の払いも大きかったことから、取り上がるような動きは見られなかった。5日～7日も地合いに大きな変化は無く、無担保コールO/N物加重平均レートは週を通して概ね▲0.05%台前半で推移した。

又、ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.03%近辺での出合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは7日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,363億円（期落ち額2,164億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.105～▲0.085%程度の水準で推移した。積みの後半に入り、投資家の資金調達意欲が堅調だった。

SC個別銘柄では、5年130～136、10年336～351、20年160～165、30年55～59、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散ながら、横ばい圏で小動きのマーケットとなった。

3日に実施された短国買入オペは、2,500億円でオファーされた。応札額が10,000億円台と多く、平均落札利回り較差+0.004%、按分落札利回り較差+0.002%と小甘い結果となった。

6日に実施された6M物の入札は、WI取引においては特段の出合いが見られない中、年末越えの担保需要もあってか、平均落札利回り▲0.1563%、按分落札利回り▲0.1502%と堅調な結果となった。セカンダリーでは、▲0.165%～▲0.159%出合いと堅調に推移した。

7日に実施された3M物の入札は、WI取引においては特段の出合いが見られない中、足元ファンディングレートの上昇や、一時に比べて3M物の需要が落ち着いていることもあってか、平均落札利回り▲0.1391%、按分落札利回り▲0.1323%と前回債からレートが上昇する結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、卸売業態1社の1,000億円弱の大型発行を筆頭に、鉄鋼や石油等の業態でまとまった量の調達が見られたが、銘柄に広がりは見られず、週間発行総額は6,800億円程度と償還額8,900億円程度を下回り、償還超のマーケットとなった。

4日にはCP等買入オペが、当初予定の3,000億円から1,500億円増額され、4,500億円オファーされた。結果は平均落札レート▲0.004%、按分落札レート▲0.007%と、前回比（平均0.001%、按分▲0.001%）で平均、按分ともに低下した。買入額増額に加え、対象が9月末越え物に限られる今月最終回のオペを意識し、レートが大きく流れる可能性も指摘されていたものの、応札額は前回比約1.6倍の1兆238億円まで膨らみ、足切レートは一部で期待されていたほどは低下しなかった。

事業法人発行残高が、過去最高となる水準で推移している中、例年に比べ期内物、期越物でレート差があまり生じない状況が続いていたが、このオペ後は期越案件でレート低下余地を探る動きが見られるようになった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/3（月）	22,707.38	0.115	111.01	△ 0.052	△ 0.102	3,894,700
9/4（火）	22,696.90	0.114	111.08	△ 0.054	△ 0.104	3,870,000
9/5（水）	22,580.83	0.110	111.50	△ 0.052	△ 0.101	3,870,000
9/6（木）	22,487.94	0.105	111.25	△ 0.051	△ 0.101	3,846,300
9/7（金）	22,307.06	0.105	110.50	△ 0.053	△ 0.094	3,857,400

来週（9月10日から9月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/10 (月)	4-6月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 7月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 8月の景気ウォッチャー調査(内閣府)				7月の米消費者信用残高
9/11 (火)	8月のマネーストック(日銀 8:50) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	30Y 7,000億円 9/12発行			7月の米卸売売上高
9/12 (水)	7-9月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50)				米ページブック 8月の米生産者物価指数
9/13 (木)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月の企業物価指数(日銀 8:50)	5Y 20,000億円 9/14発行			8月の米財政収支 8月の米消費者物価指数 ECB定例理事会(金融政策発表) 英中銀MPC結果発表
9/14 (金)		TB3M 43,000億円 9/18発行			7月の米企業在庫 8月の米小売売上高 8月の米鉱工業生産・設備稼働率 9月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/10 (月)	400	▲ 22,600	▲ 22,200	全店共通 CP買入 国債補充	▲ 2,200 ▲ 600 200	1,400	▲ 1,200	▲ 23,400	TB3M発行▲42500償還33500 TB6M発行▲23000償還19000 流動性供給発行▲4000
9/11 (火)	1,000	▲ 1,000	0				0	0	
9/12 (水)	1,000	▲ 11,000	▲ 10,000				0	▲ 10,000	源泉税揚げ 30Y発行▲7000
9/13 (木)	▲ 1,000	0	▲ 1,000				0	▲ 1,000	交付税借入▲10500期日10500
9/14 (金)	▲ 1,000	▲ 11,000	▲ 12,000	CP買入 貸出増加支援	▲ 25,900	4,500	▲ 21,400	▲ 33,400	5Y発行▲20000 社会保障の払い
週間合計	400	▲ 45,600	▲ 45,200	—	▲ 28,500	5,900	▲ 22,600	▲ 67,800	

9/10は日銀予想、9/11以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、10日にTB3M、TB6Mの発行、12日に30Yの発行、源泉税揚げ、14日に5Yの発行など不足日が多い週となる。また、積み最終週となることから、無担保コールO/N物加重平均レートは上昇基調で推移するものと見込まれる。

レポ市場は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ引き続きレートは横ばい圏で推移すると見られる。

短国市場は、14日に3M物の入札が実施予定となっており、中間期末を控えてレートの動向が注目される。

CP市場は、11日にCP等買入オペが4,500億円を実施予定となっている。足元でオペ足切レートの低下を受けた期越物への積極的な買いも見られており、オペを見据えた業者の買いがどの程度強まるか注目される。

主要なイベントとしては、国内では、10日に4-6月期のGDP2次速報、海外では12日にページブック、13日に8月の米CPI、ECB定例理事会、MPC結果発表が予定されている。

又、2018年9月から11月の積み期間に適用される日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が10日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入